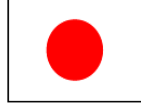




# 南高SSHだより

第9号  
H29.3.30  
新潟南高等学校  
SSH部発行

## 第6回 北東アジア環境・エネルギーシンポジウム



**参加校** (海外5校、国内6校、計11校)

- ・ハバロフスク市地方国立教育機関地方教育センター (ロシア)
- ・コムソモーリスク市「フルバ」2番市立中学校 (ロシア)
- ・ハルビン工業大学附属中学校 (中国)
- ・ハルビン師範大学附属中学 (中国)
- ・ソウル市ソウル高等学校 (韓国)
- ・山形県立米沢興譲館高等学校 (日本)
- ・新潟県立新発田高等学校 (日本)
- ・新潟県立新潟南高等学校 (日本)
- ・秋田県立秋田中央高等学校 (日本)
- ・福島県立会津学鳳高等学校 (日本)
- ・新潟県立高田高等学校 (日本)



### 日程

3月16日(木) **交流会** 海外の生徒が本校の授業に参加。  
**歓迎レセプション** 夕方、新潟会館  
 (海外生徒とホストファミリーなど計49名参加)

3月17日(金) **交流会** (午前) 海外の生徒が本校の授業に参加。  
**リハーサル** (午後) 練習・準備

3月18日(土) **北東アジア環境・エネルギーシンポジウム**

場所 新潟ユニゾンプラザ 英語で行われました。

日程 10:00~10:15 開会式

10:15~12:00 研究発表

- ①新潟南高校 Isolation of Oleaginous Yeast from Soils
- ②ハルビン工業大学附属中学校

The Investigation on Water Pollution of the Songhua River and Its Solutions

- ③会津学鳳高校 Decontamination in Fukushima
- ④ソウル高校 Charcoal-based electromagnetic shielding Hybrid paint
- ⑤米沢興譲館高校 Propeller Design for Ocean Current Power Generation
- ⑥コムソモーリスク市「フルバ」2番市立中学校 (ロシア)

Influence of electro-activated water on living systems

12:00~12:40 昼食

12:40~13:40 ポスター発表 (国内6校が参加)

13:50~14:50 パネルディスカッション

テーマ「Nature × Technology = ?」 生徒による意見交換

アドバイザー：山内 健 氏 (新潟大学工学部教授)

司会：山内 ダーリーン 氏 (東洋大学国際地域学科講師)

参加校：ハバロフスク市地方国立教育機関地方教育センター、  
 コムソモーリスク市「フルバ」2番市立中学校、ハルビン工業大学附属中学校、  
 ハルビン師範大学附属中学 (中国)、ソウル市ソウル高等学校、

秋田中央高校、米沢興譲館高校、会津学鳳高校、新発田高校、高田高校、新潟南高校

14:50~15:15 閉会式

**ホームステイ** 3月16日(木) 夜~18日(土) 朝 (各ホストファミリー)



## 成果

- ・今年も北東アジアの高校生が新潟に集い、環境やエネルギーについて学び、意見を交わしました。
- ・今年も県外から3校の参加があり、この行事の存在と意義も広く認められるようになりました。
- ・研究発表では、聴衆の生徒からも多くの質問があり、英語による活発な質疑応答が行われました。
- ・海外の生徒と南高校の生徒との活動時間が増え、多くの生徒と交流ができました。
- ・交流会では、生物実験や数学、書道など、本校生徒との活動が増え、より充実したものとなりました。
- ・ポスター発表の3テーマについても、活発な発表、質疑応答が行われました。

## 生徒のアンケートより

・私は今回の環境シンポジウムに発表者として参加すると決まったとき、不安がとてもありました。一緒に発表をする2人は英語部であり、英語でのスピーチコンテストへの参加経験もあったため自分の英語の力では2人に迷惑をかけてしまうのではないかと思いました。しかし、今となってはこのことがよかったと思えます。2人と同じぐらいにできるように自分でしてきた実験を見直し、もう一度理解し直し、英語により一生懸命取り組むようになりました。このことは私をとて積極的にこの環境シンポジウムに参加させてくれました。すごく貴重な経験になりました。今回で終わってしまうということがとて残念です。これは本当に他の高校生はなかなか経験できないことだと思います。2日間私たちの教室には昼休みの時間に4カ国の人たちが集まって一緒に時間を過ごしました。教室では会話をするために英語がとびかかっていました。今振り返ってみるとすごいところにいたんだなと思います。今夏の経験を次に活かしていくことが大切だと思います。私は今まで自分は人前で話すこと、また日本語ではなく英語で話すことは緊張してできないだろうと思っていました。しかしたくさんの練習と人前で話すことへの少しの勇気があればできるということがわかりました。また、さらに英語の力があればとて積極的に参加し、関心を持てるだろうということもわかりました。これからに活かしていきたいです。本当に貴重な経験になりました。

・私は去年のシンポジウムを見学したときに、発表者の英語力の高さと研究力に驚きました。中でも一番驚いたのがパネルディスカッションでした。当時はパネリストが何を言っているのかよく分からず、ただただスムーズにディスカッションが進行していることに驚きました。今年はホストファミリーとして少しでも外国の方とコミュニケーションをとる機会を増やしたいと思いました。ホストファミリーをやるのは今回が初めてで、恐らくこのような体験はこの先はもうないだろうと思います。私の受け入れた外国生徒はとて優しく、そしてとて英語が流ちょうで、とて驚きましたが、私は相手のいっていることが時々理解できず、大変なときはありましたが、自分が相手の言おうとしていることを理解しようとし伝えようとするれば、相手とコミュニケーションがとれることを学びました。本当に自分にとって価値ある貴重な経験ができました。そして、今年のパネルディスカッションも終始パネリストと司会のダーリーン先生とのやりとりが理解できたことがとてうれしかったです。しかし、オーディエンスに発言を求められたときに、自分は積極的に発言することができなかつたので、今後もまだまだ足りないものがあつて、英語と科学を勉強していきたいと思います。

